

日本で実績No.1[※]のオンラインストレージ 多くの企業が導入する理由とは



企業間や社内で情報共有を行う場合、最も利用される手段はメールだ。しかし、大容量のデータを共有する場合は、オンラインストレージサービスを利用した方が円滑に情報共有が行える。日本ワムネットは、多数の企業に採用されている企業向けオンラインストレージサービス「GigaCC」を提供している。今回は、多くの企業に採用されるGigaCCの魅力を解説する。

※ 出所：ITR [ITR Market View：ファイル共有・転送／コンテンツ管理市場2014]

約20万人が利用する 純国産サービス

日本ワムネットは、デジタルデータの伝送や保管サービスを核としたネットワークサービスを提供している企業だ。同社のデータ伝送サービスの中でも特に評価が高いのが「GigaCC」だ。クラウド上にデータを保管する「GigaCC ASP」と、オンプレミスのサーバーにデータを保管する「GigaCC OFFICE」をラインアップしている。

GigaCCは、ITRが発表した市場調査レポート「ITR Market View：ファイル共有・転送／コンテンツ管理市場2014」内の2013年度オンラインファイル共有市場／物理ストレージ型オンラインファイル共有市場において、ベンダー別売上げ金額およびシェアで1位を獲得した業界トップの純国産オンラインストレージサービスだ。2002年の発売以来、日本国内で約20万人のビジネスパーソンが利用している。

企業でオンラインストレージサービスを利用するメリットは大きい。例えば企業間で大容量のデータをやり取りする場合、メールで送り合うよりもオンラインストレージサービスを利用してデータの共有を行った方がよい。メールは、デー

タの容量によっては相手に送れない場合があるからだ。しかし、現在普及している無料のオンラインストレージサービスは、主にコンシューマー向けに提供されている場合が多い。そのため、各種機能やセキュリティ性が、企業利用に適していないために、情報が誰でも閲覧可能な状態でWebに公開されてしまう事故も多数発生している。

日本ワムネットのGigaCCは企業向けに提供されているオンラインストレージで、機能やセキュリティが企業利用に適したサービスだ。今回は、多くの企業に採用されるGigaCCについて、その選ばれる理由を2点に絞って紹介したい。

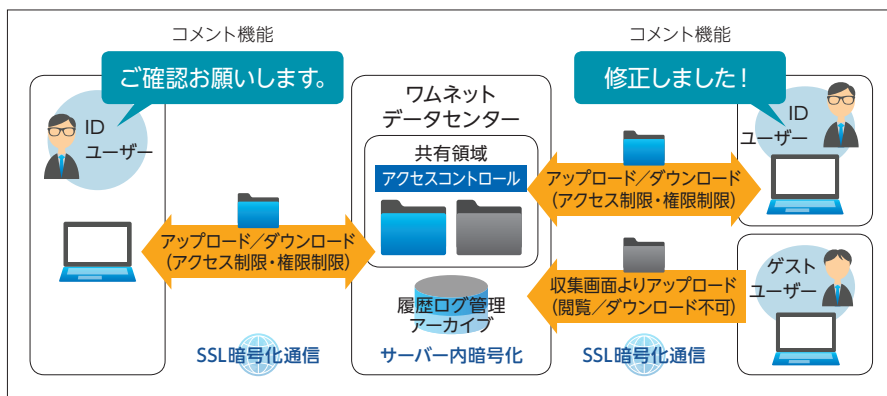
企業利用に適した 機能を多数搭載

1つ目の理由は、業務を効率化できる機

能が多数搭載されている点だ。GigaCCの主な機能は以下の通り。メールを送る感覚で大容量のデータを送信できる“ファイル送信”、ファイルサーバーを利用する感覚で企業間のデータ共有を行える“ファイル共有”、オンライン上のノートを編集する感覚で意見交換ができる“共有ノート”の3つだ。これらの機能を利用して、情報共有を円滑に進められるのがGigaCCの強みだ。GigaCCはWebブラウザを経由して利用するため、Windows PCやMacからでもデータにアクセスできる。

中でもファイル共有と共有ノートの機能を活用すれば、業務効率の大幅な向上が可能だ。ファイル共有は、前述したようにファイルサーバーを利用する感覚でデータの共有ができる機能だ。ファイル共有スペースにアップロードしたデータにアクセスできるユーザーは、そのデータに対してコメントをつけられる。例え

■ ファイル共有機能のイメージ



ばカタログを制作するプロジェクトを進めている場合、アップロードしたデータに対してどこが良かったのか、修正すべきポイントはどこかなどを、アップロードしたデータのコメントスペースに直接書き込めるのだ。ドキュメントビューワーが搭載されているため、データをダウンロードせずに確認でき、そのままコメントも行える。GigaCCの中で業務に必要なコミュニケーションが完結できるため、業務効率の向上を図れる。

2つ目の理由は、企業の利用に適したセキュリティ性を確保している点だ。企業の情報をオンラインストレージ上に預ける場合、情報漏洩が心配される。GigaCCはSSL暗号化通信やサーバー内暗号化などによって、外部から不正にアクセスされても、データを読み取れないようになっている。しかし、オンラインストレージサービスを企業間にまたがるプロジェクトなどで利用している場合、プロジェクトに参加していない社員が共有データにアクセスし、そのままデータを持ち出すことで情報漏洩してしまうケースも考えられる。

GigaCCではそのような事態を防ぐため、共有ファイルへのアクセス権を、ディレクトリ単位で設定できる。プロジェクトに参加していない社員が共有データへアクセスすることを防げるのだ。また、アクセス権のあるユーザーがデータを漏洩させてしまう可能性もあるが、誰が、いつ、どこからデータにアクセスしたのかを追跡できる履歴ログ管理機能とアーカイブ機能を搭載しているため、データが漏洩しても、漏洩したデータにアクセスした人物を特定できる。漏洩ルートを迅速に割り出せるのだ。

アクセス権を管理できるのがGigaCCの利点であるが、それらすべての管理をシステム管理者が行おうとすると負担が大きい。そこで、GigaCCは管理者を複数の階層で設定できる方式を採用している。社内のActiveDirectoryとの同期や、

■ 意見共有が簡単に行える



システム管理者から管理者権限の委譲、社内業務で利用しているクラウドサービスとのシングルサインオンにも対応しており、管理負荷の軽減が可能だ。企業の管理負担を減らしながら、高いセキュリティ性を確保できるのが強みだ。

グローバルに展開する企業など業種や規模を問わず採用

これら2点の導入メリットがあるため、GigaCCの導入実績は非常に豊富だ。流通・物流業や製造業など業種を問わず、多くの企業で採用されている。特に、製薬や創薬に関わる大容量データを扱う科学・製薬業や海外プラント建設の重工業業界、銀行、自動車メーカーにおいても導入実績があることから、GigaCCのセキュリティに高い信頼性があるとわかる。企業規模も大手からSMBまで幅広い。提供形態がクラウドサービスだけでなく、オンプレミスサーバーにソフトウェアをインストールするソフトウェア販売などから選択が可能な点も、多くの企業に採用される理由といえる。新規にオンラインストレージサービスの導入を考えている企業に対して、この豊富な導入実績を紹介

すれば説得力が増すため、採用につながられるだろう。

また、GigaCCは日本から中国・東南アジア間の高速で安全なファイル共有を実現できるアジアゲートウェイを設置している。中国や東南アジア地域のネットワークインフラは不安定な場合があり、国内でデータを共有するようにスムーズには行えない。しかし、中国や東南アジア地域からGigaCC内の共有データにアクセスする場合には、最寄りのGigaCCゲートウェイに接続することで、通信を高速に行えるようになるのだ。そのため、海外に支部を設けている企業や、取引先が海外にある企業でも、迅速なデータ共有を実現できる。また、利用者画面・通知メールは日本語、英語、中国語に対応しているため、現地の従業員が日本語を使えなくても利用可能だ。グローバルに事業を展開している企業に対しての提案も行えるだろう。

業種や企業規模を問わず、多くの企業に採用されているGigaCC。今回紹介した採用理由や導入事例をもとに、積極的にユーザー企業に提案を行い、商談獲得につなげたい。

[GigaCC ASP] [GigaCC OFFICE]

● 価格 (税込) : 19万2,240円～ (GigaCC ASP 1GB、1年間+初期費用)

動作環境

対応OS : Windows 8/7/Vista/XP、Mac OSX 10.8/7/6/5/4、iOS 7.x/6 (iOSデバイスは専用アプリを利用)
Web ブラウザー : Internet Explorer 11/10/9/8/7/6、Firefox、Chrome、Safari、Firefox、Chrome
アクセス回線 : ADSL、Bフレッツなどのブロードバンドインターネット接続